

## 人は懲いずに失敗をする。終わらない戦争

今年も戦争は続いている。世界的に見れば戦争のなかった時期はないという。

国と国の領土とかの利害が対立したり、宗教や文化・政治体制などの正義が対立したりすると、対立する両者は話をしなくなることがある。特に面目などを重視すると挨拶さえもしたくないし、出来ない。

対立する相手と話をしないで、軍備を増強し抑止力と言い出す。確かに抑止力が生み出す安心はあるだろうが、絶対ではない。なぜなら国や世界の経済や気候は常に変わるし人も変わる、絶対的な優位な抑止力などないのだ。

抑止力より対立する相手と勇気をもって話をしなくてはいけない。物別れで当たり前、何度でも話をする。諦めたらもっとひどいこと、戦争になる。人が60年も生きていて考えれば、そんなことはよくわかるはずだ。

災害に備えろと言うが、これにも絶対的な備えはない。先達は後進に経験を伝えて、皆で考え備えることしかないのが人間だ。

それ以外の問題がある場合は、問題全体を把握し、問題を抱えている当事者に話を聞く。専門家も必要だろうが当事者に話を聞かないから、お仕着せでチグハグな政策が出来てしまう。ましてやキックバックパーティー券の政治家ではその政策で利益が出る団体向けの政策に捻じ曲げられても当然だ。

聞き心地のよいマスコミ発表に騙されてはいけない。厚労省は介護報酬を上げると言っていたが、蓋を開ければ他の介護報酬は上げるが訪問介護の報酬だけは削られるという。このまま黙っていても、国民一般には介護報酬が上がったとの印象が残るだけだ。



遠くの方で空襲が

## やっぱり作り過ぎた施設や集団住宅は失敗だった。

安倍政権時代、要介護者の家族が介護を理由に離職することが問題になったことに対処して、施設や集団住宅（箱モノ）を量産したことに始まる。2000年介護保険制度発足時のように訪問介護が元気だったら、介護離職は問題にならなかつたらう。しかし介護保険の赤字を理由に、厚労省は訪問介護に一方的な規制をして訪問の仕事は削減し「介護は家族にさせろ」と言い出した。その折も折、安倍政権が離職になるから「家族の介護はやめろ」と言うから真逆の話になる。安倍政権に逆らえない厚労省は、箱モノで乗り切ることにして国交省に箱モノ建設費を回す。これで介護保険の赤字増加を名目上は乗り切ったつもりだ。

しかし、箱モノ専属の訪問介護はめいっぱい時間を限度額まで請求するので介護保険を圧迫する。箱モノの公費負担は国交省の分もあるので増加。そして利用者は部屋代等の高額な費用がいるので入居者は限られる。

そして今、作りすぎた箱モノは今定員割れで倒産の危機に瀕している。その責任は厚労省にあるが、箱モノが潰れては行く先のない利用者が出るので、その対策として大手による吸収合併が進んでいる現状だ。また箱モノの経営を安定させるため介護保険に医療保険を上乗せする所も出てきている。これには過剰な医療が心配される。



## 少し手伝ってもらえば助かいますと言う方に生活支援サービス。

要介護や要支援でなくとも、利用できるホームヘルプサービスがあります。

お弁当の配達補助金が受けられるような名古屋市の総合事業対象者の方に買い物や掃除・洗濯限定のホームヘルプサービスが利用できます。ご希望の方は当社までご連絡ください。

## 高齢者と障害者の方には長く生きて、人に伝え続けて欲しい。

戦争や災害が絶えない。死者数を聞くたびに心が痛む。

そんな中で高齢者や障害者はどうしているのだろうと考える。命の重さは皆同じと言うがどうだろう。

私は子供を加えて、弱者こそ人々の宝と思うようになってきた。

## 私が今日までに見聞きし、今伝えたいこと

歳をとって記憶力や体力が衰え出来たことができなくなる。しかし解ることもいろいろとある。

一部ではあるが障害ということが実感できる。昔祖母が「腰にレンガが入ったように痛くて動かない」といったが、体が思うように動かないことが実感できるようになった。記憶や脳の働きについても確実に衰えているのだが、子供の頃から「おっちょこちよい」の私にとっては「おっちょこちよい」が強化されたのかも知れない。

一方で、年寄りや若い人より確実に長く生きているので経験は長く豊富だ。人によって成功や失敗は様々だがそれはかけがえのないものだ



伊勢湾台風、貯木場の木材が流出し大災害

ろう。若者が二度と大きな失敗を犯さないようにと、戦争や災害時の記憶を風化させないようにしているのはその一例である。戦争や災害時の記憶を文章や映像で残すことも大切だが、体験した者が実際に語ることは代え難いことだ。

私にとっては、亡き父が熱田の陸軍工廠で働いていてB29の空襲にあい、多くの学徒動員生が犠牲になった話と、その跡を残す工場の一部が数十年前まで残っていたこと。廃工場の中は瓦礫だけだった。

伊勢湾台風については、亡き母に連れられて浸水しただろう親戚の家におにぎりを作って、歩いて見舞いに出かけたが、新瑞橋から南には未だに水が引いていない所がありやむなく戻ってきたことがある。

今の戦争や災害が遠い場所のことでも、伊勢湾台風や名古屋空襲の話の直に聞いたことがあれば自ずと捉え方が真剣になると思う。

## 家でジッとしないで、できる限りでいい、外へ出よう。

知り合いが居なければ挨拶だけでいい。挨拶が恥ずかしくなければ自分を見てもらおう。歳をとっても、不自由になっても、この街で生きていることを知らせよう。困ったら誰かに聞こう。誰もが優しく助けてくれるわけではないだろうが、それでも勇気をもって外へ出よう。実践でこの街を、住みやすいみんなの街にしていこう。あなたが出かけなくなれば、誰かがあの人どうしてるのだろうと思ってくれるかも。それも私やあなたに出来る事。

## ホームヘルパーとお弁当を利用して、お一人様で大丈夫

何かお困りのことがありましたら、お気軽に当社までご相談ください。ホームヘルパーやお弁当のご依頼の他、親切的なケアマネさんや相談員さんをご紹介しますこともできます。

◎ お電話は、年中無休で朝8時半までお願いします

◎ TEL：052（852）3144 訪問介護と配食事業の有限会社レイビー Let it be



熱田陸軍工廠跡、外観は綺麗に補修し塗り替えてある。

